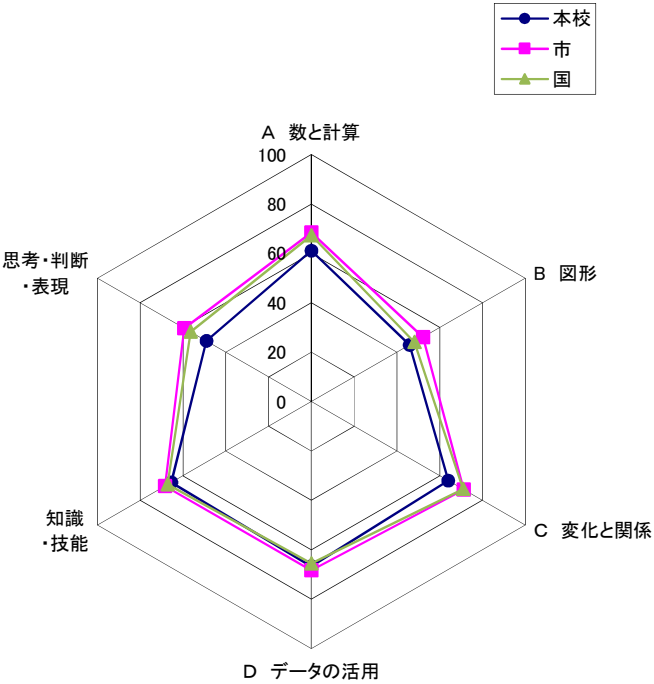


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.1	68.4	67.3
	B 図形	45.9	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	64.0	71.2	70.9
	E データの活用	66.7	68.3	65.5
観点	知識・技能	65.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	49.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○「以上」の意味を理解し、示された数から必要な数を読み取る問題の正答率は73.5%で、他の問題と比較すると正答率が高く、平均並みである。 ●示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかを判断する問題の正答率は45.9%で、全国平均より10.8ポイント下回った。	・自分の考えを式にまとめ、説明することが難しい。1つにまとめた式にするのか、まとめずに分けた式にするのか、自分の考えをまとめやすい形で立式させ、その立式の流れを言葉で説明する経験を積ませていく。また、無回答も多いことからそのような問題を解く回数を増やし、苦手意識を減らしていく。 ・小数の計算方法の理解が不十分である。位を揃えること、状況によって0を消すことなど計算方法を復習する場を、授業の始めに短時間で設けていく。
B 図形	○台形の意味や性質について理解しているかをみる問題の正答率は62.2%で、全国平均より2.4ポイント上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかをみる問題の正答率は16.3%で、全国平均より8.6ポイント下回った。	・問題の内容を理解する力に課題がある。特に図形の問題では、実物を目の前にして取り組む経験が大切なので、ブロックや折り紙を用いて問題を実際に行ってみる場を作っていく。 ・図形の性質への理解が不十分である。辺や角、垂直や平行など図形ごとの特徴を今一度確認し、図形を判断する時にどうしてその図形と言えるのか根拠を示すことができるよう図形の性質について確認する。
C 変化と関係	○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題の正答率は90.8%で、他の問題と比較すると正答率が高く、平均並みである。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の正答率は38.8%で、全国平均より16.7ポイント下回った。	・表をもとに変化の様子をとらえることはできるが、足し算の問題から掛け算の問題に急に変わると理解ができない児童が多い。様々な問題を提示し、その都度適切な解き方に自分で気付くことのできる力を高めていく。
D データの活用	○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題の正答率は60.2%で、全国平均より4ポイント上回った。 ●「以上」の意味を理解し、示された数から必要な数を読み取る問題の正答率は73.5%で、全国平均より2.2ポイント下回った。	・以上や未満といった言葉による意味の違いへの理解が不十分である。提示された範囲を図や数直線で表したり、反対に図や数直線で表された数を言葉で表現したりしながら理解を深めていく。 ・1つの表の中に多くの数字があると、どこを見るのか分からない児童が多い。問題文と表を照らし合わせて、どこを見ると分かるのか、どうしてそこを見るのか、表の見方をその都度確認してから問題に取り組むようにしていく。